

## ストラスブール研修での発見と学び

自分がこのストラスブールの語学研修で学んだ第一のことは海外における対人コミュニケーションにおける積極性の重要性である。2週間のフランスでの生活での感触として、向こうの人々は基本こちらから話しかけたり訪ねたりすれば、何らかの手間をとって便宜を図ってくれる人が多かったが、同時に受動的な態度で事態が好転したことはほぼなかった。ストラスブール大学での講義を受け持ってくださった先生方や交流したフランスの学生の人たちはまた態度も違い、こちらが受動的な姿勢でいたとしても向こうから積極的に関わってしてくれる場面もあったが、街中ではより自身の積極性が求められた。

これに関連してボディランゲージやジェスチャーも個人的にはコミュニケーションに重要な要素だった。未だ外国語での会話能力が拙い自分ではあるが、かつて何度か英語で外国人と会話した時にはゆっくりと単語を区切って話せば大体意味が通じるのでそれで事足りた。が、フランス語の会話の場合、1つずつ単語を区切って話すリエゾンなどの関係で響きが変わってしまいそれで意思疎通に難儀する場面もあった。また自分が聞き取る側の時もフランス人は早口の人が多く、ゆっくりと話してくれる大学の先生方とのギャップを強く感じた。故にボディランゲージやジェスチャーでこれを補う必要があり、特に家庭訪問の際にこのことが顕著だった。

次に自分が学んだことはフランス人学生との交流を通じて得た日本人とフランス人の意識・感覚の差異と異文化理解の重要性である。自分は研修中、最初からプログラム内にあった日仏会館でのウェルカムパーティーや相互の文化紹介をテーマとしたプレゼンテーションの講義の他に、幸いにして3回、個人的に友人たちとフランス人学生たちとの交流をすることができた。その中で色々と日仏両国の文化などについて話す機会があったが、その中でお互いの意識差やカルチャーショックなどの体験をし、相互理解の重要性を学ぶことができた。また講義でも取り扱われたテーマではあるが日本人・フランス人のステレオタイプ的なイメージについて話し合い、それらのイメージからある程度脱して相互理解を進めることができた。

中でも個人的に面白かった日仏間の文化的な差異はいくつかあり、1つ目はストラスブール市内を縦横に走るトラムについてのものである。自分を含め、今回研修に参加した名古屋大学の学生は概ねトラムの乗り心地を高く評価し、快適な移動手段だとする声が大きかったが、自分が交流したフランス人学生たちによるとあれは不快な乗り心地だそうである。何でも揺れがきついそうだ。少なくとも自分としては名古屋の地下鉄を基準に乗り心地を評価したので、快適だというのはお世辞ではない。トラムを不快と評したフランス人学生の一人は来年から名古屋大学に留学すると言っていた。彼女の名古屋の地下鉄の評価をぜひ1度聞いてみたい。

また、電車内での振る舞いについても文化的差異が見られた。日本では車内で大声で電話をしたり喋ったりするのはご法度だが、フランスではその辺りのことが普通に行われている

た。このことをフランス人学生に尋ねると「車内は互いに好きなことをやって気を紛らわせなければもたない」とのことで、どうも前述した電車移動を不快に感じる精神と繋がっているように思えた。今後は日本の電車移動中に外国人が大声で電話をしても、安易に顔をしかめたりすることは控えようと思う。もしかしたらその人たちは「車内」という空間に対する文化的な意味づけが異なっているかもしれないのだから。

最後に自分が学んだこととしては日本国内で、また名古屋大学の構内でもよく見かける外国人学生の人たちへの認識を改めたことがある。自分は本研修に参加するまで海外経験が無に等しく、記憶も残っていないほど幼いころに両親についてアメリカ合衆国に数日間滞在したことがあるだけの人間だったが、今回フランスで 2 週間生活し、ストラスブールの人々に非常に暖かく接してもらった経験を経て、過去に日本で自分が外国人旅行者や留学生に接してきた態度を振り返るに至った。別に非常に無礼な態度で接したことがあるわけでもないのだが、もっと良い対応はできなかったかと逡巡する思いである。

また町中のコンビニエンスストアなどでよく見かける若い外国人のアルバイトの人たちにしても、異国で、異言語で異文化の職場で働いている人間として見たときに、彼らへの尊敬の念が湧いた。自分に置き換えたならそれはとても高度なことに思えたからだ。

近年、日本の国会やメディアでも外国人技能実習制度における待遇の問題や、外国人留学生のアルバイトの問題について盛んに議論がされているが、今回の研修を終えてそれらの問題をぐっと身近なものとして感じるようになったと思う。

全体として今回の 2 週間の研修で学んだことは、自分の国際的な感覚やコミュニケーションに関する態度に大きな影響を及ぼした。この成果を今後の学生生活、その後の社会人としてのキャリアの中で無駄にしないようにしたい。